

# 令和4年度 学校経営方針

新島村立新島中学校  
校長 川元 泰史

公立中学校の使命は、生徒の自立を促すこと、その自立した生徒同士が協力し合って、よりよい社会を築いていけるよう、そのための力を育むことである。本校においては、コロナ禍の厳しい状況下であっても、将来、生徒がふるさと新島を誇りに思い、日本社会の一員としてより良い人間関係を築き、新しい社会の在り方を創造し、豊かな人生が送れることを目指す。このことを念頭に、下記のとおり令和4年度の学校経営計画を策定する。

## 記

### 1 教育目標

明るく 正しく 強く生きよう

- ① 進んで学習する。
- ② よく考えて行動する
- ③ たくましい心と体をつくる

### 2 学校の基本姿勢

#### (1) 目指す学校像

- ① 学力の三要素に基づき確かな学力を育む学校（教育目標 ① に対応）
- ② 豊かな心と正しい判断力を育む学校（教育目標 ② に対応）
- ③ 困難を克服する力を育む学校（教育目標 ③ に対応）

#### (2) 目指す生徒像

- ① 学び合い、教え合うことを通して、学ぶ意欲と将来の見通しがもてる生徒（同上①）
- ② 聴き合い、理解し合うことを通して、お互いの人権と人格を尊重し合える生徒（同上②）
- ③ 心と体を鍛え、仲間との協力を通して、困難を乗り越えられる生徒（同上③）

#### (3) 目指す教師像

- ① 主体的に学習に向かう態度を育み、学びに向かう力と豊かな人間性を育む教師（同上①）
- ② 生徒のもつ様々な背景を理解し、人格を尊重し、行為について正しく導く教師（同上②）
- ③ 全教育活動を通して、生徒の心と身体を鍛え、連帯感を育む教師（同上③）

#### (4) 教師の勤務のあり方と服務事故防止

- ① 時間外勤務時間の削減に努め、職員の職務効率の向上と健康増進に努める。
- ② 常に生徒のお手本となるよう、言葉遣い、服装、態度等に配慮して勤務する。
- ③ 服務事故の根絶に努めるとともに、島しょ地区特有の配慮事項を遵守する。
- ④ ICT活用能力を高め、職務に活用するとともに、適切な利用と事故防止に努める。

### 3 教育目標を達成させるための基本方針（教育課程 第1表より）

#### (1) カリキュラムマネジメント（教育課程管理）の推進

- ① 生徒及び地域の実態を把握するとともに、学校の教育課程を地域に発信することにより、家庭、地域、学校が一体となって生徒の成長を確かなものとする。※地域に開かれた教育課程
- ② 学習指導と学習評価は学校の教育活動の根幹にあたり、年間指導計画に基づいた学習指導を推進し、その評価結果を今後の生徒の学習や教員の指導の改善に活かす。※改善に活かす
- ③ 本年度は、GIGA（世界と改革への開かれた扉）スクール構想の2年目として、生徒一人1台の端末を活用し、通常授業の中での授業改善、離島生徒等とのオンライン授業の推進、教科横断的な探求的な活動などの充実を図る。※教科横断的な視点

#### (2) 学力の三要素に基づき確かな学力を育むために（目指す学校像①）

- ① 学力の三要素を、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」、学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性」と位置づけ、確かな学力の育成を図る。
- ② 確かな学力の育成を図るため、主体的・対話的で深い学びを推進する。個々の知識がつながり理解や興味が高まり、ともに考え学び合うことで新たな発見や豊かな発想を生み出す。また、見通しをもって粘り強く取り組み、学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む。
- ③ 学習課題を身近な生活や生徒の生き方に関連させることにより、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。※令和2年度の校内研究
- ④ 各教科に特有な見方・考え方に基づき、生徒が着眼すべき対象やその内容、対象へのアプローチの方法など、目指すべき授業の在り方を具体的に示す。※令和3年度の校内研修

#### (3) 豊かな心と正しい判断力を育成するために（目指す学校像②）

- ① 自他の個性や立場を尊重する心を育てるために、教育活動全体を通して、認め合い、励まし支え合い、高め合う人間関係づくりに取り組む。
- ② 道徳的な心情・判断力・実践意欲と態度など道徳性を養うために、特別の教科 道徳の時間をはじめとするすべての教育活動を通じて、生命尊重・人権尊重の精神や規範意識・思いやりの心を育む教育を推進する。
- ③ 地域や社会の一員として、新島村の行事や活動に進んで参加・協力することを通して、郷土を愛する心やモヤイの精神で助け合い奉仕する心を育てる。特に、オリンピック・パラリンピック（以下「オリパラ」）レガシーを継承し、世界につながっている海に着目し、奉仕活動、国際理解を推進する。
- ④ いじめについては組織的に対応し、未然防止・早期発見・早期解決を図る。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、自他を大切にする感染防止策の推進、感染者や濃厚感染者への差別や偏見を許さない毅然とした指導を行う。

#### (4) 困難を乗り越える力を育成するために（目指す学校像③）

- ① 心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るために、特別活動などを通じて、自己肯定感を高め、協力して物事を成し遂げようとする自主的・実践的な態度を育てる。
- ② 特別支援教育の充実を図るために、特別な支援を必要とする生徒には、生徒本人・保護者との十分な意思疎通を図り、個々の情報や対応を全教職員で共通理解の上、指導にあたる。
- ③ 生徒の実態に応じ喫緊の教育課題に対応しながら豊かな心と健やかな体を育むために、多様な学びと体験の機会を設ける。（朝読書、朝書写、新中タイム、食育、安全指導、情報モラル、部活動など）
- ④ 不登校生徒の支援については、社会への適応を目指す観点で、スクールカウンセラーや外部機関などとの連携を密にし、きめ細やかな幅広い教育相談活動と支援を展開する。
- ⑤ 自らの生き方を考え、主体的に自己実現を目指す生徒を育成するために、新島村連携型一貫教育の下、キャリア・パスポートを活用し、キャリア教育の充実を図る。
- ⑥ GIGAスクール構想の推進により、様々な事情により登校できない生徒でも、学習する権利を保障できるよう、オンラインシステムによる教育環境の向上を図る。

#### 4 基本方針に基づく本年度の方策一覧

##### (1) 教育課程届出に基づくもの(抜粋)

項目	具体的方策
各教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 年間指導計画・評価計画に基づいた指導と評価の一体化を推進する。</li> <li>② 教科特有の見方・考え方にに基づき、目指すべき授業の在り方を具体化する。</li> <li>③ 生徒同士が学び合う授業の実践と主体的に学習に取り組む態度を育成する。</li> <li>④ 生徒一人一台端末を活用した授業改善とオンライン授業を充実させる。</li> <li>⑤ 国、都、民間学力調査、関係者アンケート結果を活用する。</li> <li>⑥ 数学と英語では指導法の工夫改善を図り、少人数での指導を推進する。</li> <li>⑦ 英語では体験型英語施設(TGG)等を通して、会話力を一層育む。</li> <li>⑧ 各教科個別の教育課題への対応を適宜実施する。</li> </ul>
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 人権尊重、生命尊重の精神を柱とした道徳的心情、道徳的判断力を養う。</li> <li>② 生徒が考え、議論する道徳授業を実践する。</li> <li>③ 道徳的ねらいを明確にし、新島村の郷土を愛する態度を養う。</li> </ul>
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学級活動では、互いの存在を認め、高め合う集団をつくる。</li> <li>② 生徒会活動では、自発的、自治的活動を通して主権者意識を育む。</li> <li>③ 学校行事では、生徒同士の連帯感を育み、学校生活の充実と向上を図る。</li> <li>④ 全教育活動との調和を考慮し、行事にあてる時間と内容を精査する。</li> </ul>
総合的な 学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 探究的活動を通して下記②の4点を育て、自己のより良い生き方につなげる。</li> <li>② 知識・技能の活用力、情報の収集と活用力、未来創造力、郷土愛を育成する。</li> <li>③ 移動教室と修学旅行では探究的活動を取り入れる。</li> <li>④ 必要時数を考慮の上、文化祭等で発表の機会を設ける。</li> </ul>
特別支援教 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>① B組(知的固定学級)においては、当該教育課程に基づき実施する。</li> <li>② C組(チャレンジ:情緒教室)においては、当該教育課程に基づき実施する。</li> <li>③ A組(通常級)の生徒への授業や放課後支援も、可能な範囲で適宜行う。</li> <li>④ 全教職員が共通理解に基づいた支援を行うため、校内委員会を定期開催する。</li> <li>⑤ スクールカウンセラーの助言を受け、必要に応じて関係機関との連携を図る。</li> </ul>
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 挨拶、時間、言葉遣い、身だしなみ等の基本的な生活習慣を確立させる。</li> <li>② いじめの未然防止に努め、校内委員会を中心に早期解決を図る。</li> <li>③ 生徒の呼称には敬称をつけ、生徒名簿は性別混合の50音順とする。</li> <li>④ 学期に1回、ふれあい週間を設定し、全校体制で教育相談を行う。</li> <li>⑤ 不登校への支援は社会適応をねらいとし、生徒の状況を踏まえ支援を行う。</li> <li>⑥ 津波、火災、噴火等を想定した防災訓練を毎月行う。</li> <li>⑦ インターネットの新島・式根島ルールを生徒手帳にも明記する。</li> <li>⑧ 安全教育プログラム、防災ノート、東京防災等の活用と安全点検を行う。</li> <li>⑨ 生徒会活動、係活動、清掃活動を通して責任感、奉仕の心を育む。 本年度は、「オリパラ」レガシーを継承し、海を通じた奉仕の心を育む。</li> <li>⑩ 生徒の救助信号(SOS)の出し方について指導し、生命尊重の心情を育む。</li> <li>⑪ 新型コロナウイルス感染症に伴う差別や偏見の防止と徹底に努める。</li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 職業調べ、職場訪問・体験等を通して調和のとれた勤労観、職業観を育む。</li> <li>② 職場体験は他の領域との時数調和を図るため、3日間とする。</li> <li>③ 新島村連携型一貫教育による「保・小・中・高」の連続した進路指導を行う。</li> <li>④ 進路個人カード「夢を拓く」はキャリア・パスポートとして継続する。</li> <li>⑤ 生徒が成人したときの生き方、あり方を踏まえ、将来設計能力を育む。</li> </ul>
特色ある教 育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 朝読書と朝書写を適宜実施し、情操、読書週間、書字能力の向上を図る。</li> <li>② 家庭学習ノート、新島未来塾、補習教室等により学習習慣の定着を図る。</li> <li>③ 新中タイムを実施し、津波発生時の避難を想定した体力づくりを行う。</li> <li>④ 人権尊重教育を推進し、多様な価値観を育み、障害理解等の意識を高める。</li> </ul>

(2) 教育課程届出以外の項目

項目	具体的方策
部活動	① 生徒及び教員の過度な負担とならないよう、部活動ガイドラインを遵守する。 ② 限られた時間の中で有意義な活動となるよう努め、安全面、健康面への配慮を充分に行う。令和5年度の地域移行に向け、関係機関との協議を行う。
教員研修	① 校内研修は、「主体的に学習に取り組む態度の育成と評価の在り方」を主題に講師を招聘した研究授業を2回実施する。また、授業相互観察とリフレクション等を継続して推進するとともに、東京教師道場の還元研修を行う。 ② 実践教育研修会では、村内小・中学校との連携を深めながら、東京都や島しょ地区の教育課題の解決について、広い視野から研鑽を深める。 ③ 新島村連携型一貫教育では、「保・小・中・高」との連携を深め、幼児、児童、生徒一人一人の新しい時代に必要となる資質と能力を伸ばせるようにする。 ④ 服務事故防止研修を、4月、7月、12月に実施し未然防止に努める。 ⑤ その他の課題研修等については適宜実施する。 ⑥ 年間1回は離島しての研修に参加し、教員一人一人に応じた資質・能力の向上を図る。また、そのための予算措置を行う。
学習指導要領に沿った取組	① 校内研究の成果を活かし、本校としての授業改善のあり方について共通理解事項を定める。 ② 年間指導計画、評価規準を策定する。策定に当たっては、学校、生徒、保護者が共有できるよう、わかりやすく簡潔なものとする。
家庭、地域との連携	① 学校だより等、ホームページ、ブログで情報発信を定期的に行う。 ② 家庭との連絡を密に行い、生徒の変化や課題に早急に対応できるようにする。 ③ 学校運営連絡協議会を年3回実施し、地域連携の一助とする。 ④ 電子データでの配信を増やし、これに伴い紙資料配布を低減するよう努める。 ⑤ 各種検定試験は、社会教育が整備されるまで、学校教育の一環として実施する。
職務環境の向上	① 新島村教育委員会の方針に基づき実施し、勤務時間外の職務を削減に努める。 ② カリキュラムマネジメントにより効率的・効果的な教育課程の工夫を図る。 ③ 保護者や地域関係者との会合は原則勤務時間内に設定する。

5 学校評価

生徒、関係者（保護者、学校運営連絡協議会委員）を対象に年2回実施する。

項目	番号	評価内容
教科指導 道徳授業	1	生徒は教科の授業に積極的に参加している
	2	生徒にとって教科の授業はわかりやすく楽しい
	3	生徒は道徳の授業では自分の生き方について考えることができた
	4	生徒は家庭学習に毎日取り組んでいる
生活指導 特別支援 進路指導	5	生徒は学校や地域社会で正しい言葉遣いやあいさつを心がけている
	6	生徒は学校の決まりを守って生活している
	7	学校は困り感のある生徒に対して、個に応じた支援を行っている
	8	生徒は職業の学習などを通して将来のことを考えられるようになった
特別活動 地域連携	9	生徒は生徒会活動（委員会）、係活動などに積極的に取り組んでいる
	10	生徒は行事に積極的に取り組み、仲間との絆を深めている
	11	生徒は部活動に積極的に取り組んでいる
	12	学校は学校だよりやホームページなどを通して情報発信に努めている